

校名：佐賀大学教育学部附属中学校

所在地：〒840-0041 佐賀県佐賀市城内一丁目 14 番 4 号 電話番号：0952-26-1001

記載日：平成28年5月18日 記載者：藤井昭三 記載者役職：教頭

貴校の校風、おおまかな特色について：

長い歴史と伝統に支えられながら、大学と連携し、実験的・先導的な教育研究に取り組んでいます。「真・善・美」は、校歌にも歌われている、本校生徒が理想として追い求める価値です。

次世代のリーダーを育成するために、次の7つのことを本校の特色とし掲げています。

- ・ 高い志をもち、社会に貢献できる人物を育てます。
- ・ グローバル人材育成の素地を培います。
- ・ いじめの根絶のための取り組みを通して、高い人権意識を育てます。
- ・ 大学と連携して質の高い教育を提供します。
- ・ 輝きの時間〈20の言語活動〉を軸として思考力・判断力・表現力を高めます。
- ・ 生徒主体の学級活動や生徒会活動をPDCAサイクルで展開していきます。
- ・ 東日本復興支援・ホスピス支援等、ボランティアスクールとして輝きます。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 追跡調査はしていません。
- ② 隣接している県立の進学校と年2回、連絡協議会をもっており、その際に進学状況等について簡単に情報提供をうけていますが、詳細は把握できていません。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 本校では現職職員と本校勤務経験者で私的団体を作っています。定期的に懇親会や情報交換会をもってしています。その会への案内の回答中に現況報告が含まれています。
- ② 活躍状況について、すべての勤務経験者については正確に把握できていませんが、直近10年以内に勤務した職員の8割程度の情報は把握できています。勤務経験者からの近況報告等は校内に保管しています。

③ 勤務経験者の現状は、赴任先で研究主任を務めたりすることはもちろんですが、教科等の指導技術を評価され、県からスーパーティーチャーに任命された者もいます。また、管理職員として学校運営に関わっている者も多数います。行政機関で勤務している者も多く、教育センターや教育委員会で指導的役割を担っている者も多いです。このように本校の勤務経験者は県内のあちこちで指導的立場で活躍しています。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

1 グローバル人材育成の素地を培う

国際感覚を身に付け、佐賀や日本と世界をつなぐ次世代リーダーの育成を目指して香港や上海など近隣都市の中学校を訪問したり、Skype を使った遠隔地交流を実施しています。昨年度はのべ72名の生徒が学校の代表として交流のために海外研修に出かけました。

また、留学などに積極的に参加することができるように、英語検定協会や佐賀県と協力し教育講演会や相談会を実施しました。昨年は、在福岡オーストラリア総領事館の商務官である松本文仁様や日本英語検定協会教育事業部の西畑瑠衣子様、佐賀県教育庁教育政策課グローバル人材育成担当係長の高井東子様などをお招きしてご講演いただきました。本校の生徒や保護者だけではなく、近隣からの出席者も多く、盛会となりました。



2 いじめの根絶に取り組む

いじめ問題は大きな社会問題ともなっております。本校ではいじめの根絶のために、生徒会を中心に意欲的に取り組んでおります。生徒会長の呼びかけで、いじめ撲滅のための組織「いじめバスターズ」が組織されました。校内で活動するだけでなく、文部科学省主催の「全国いじめ問題子供サミット」に参加し、本校の取り組みを発表してまいりました。



また、本校は現在もNHK東京からいじめ問題への取り組みについて取材を受けています。その取材された内容がNHKのEテレで放送されました。

現在、Eテレでは「いじめ問題」を考える番組として「いじめをノックアウト」が放映されています。その番組で「いじめを考えるキャンペーン」として「めざせ！100万人の行動宣言」というタイトルで視聴者からいじめをなくすための行動宣言を募集しています。本校では、生徒会が中心となり、この「めざせ！100万人の行動宣言」に取り組んでいます。また、平成26年度から交流を始めた香港林護中学校とSkypeを使って「いじめ問題」を取り上げた道徳の交流授業の様子が取材を受けました。この時の様子も放送で紹介していただきました。

この「めざせ！100万人の行動宣言」については本校の生徒会が市内の生徒会へ呼びかけ、その取り組みの輪が広がっています。近隣の学校とも連携を深め、地域ぐるみでいじめ撲滅に取り組んでいます。

3 大学の授業をうけてみよう

本校育友会と協力しながら、大学の先生方に大学の講義室で中学校の生徒に授業をしていただく機会を作っています。昨年度は約300名の生徒が受講しました。

大学の先生方からの専門的なお話を聞くことができ、生徒からも保護者からも好評をいただいております。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

本校は学部及び附属小学校と共同研究をしており、毎年、公開研究発表会を開催しております。参加者は年々増えており、昨年は612名の参観がありました。本校の教育に興味をもっていただけている先生方が増えてきています。また、本校を受験する児童数も毎年少しずつ増えており、地域の住民の方々にとっても魅力ある学校とだけ思っているようです。

研究発表会以外でも、日頃の授業様子や指導の場面を見せてほしいと、県内外の学校から見学の依頼がきております。校内研修会の講師の依頼を受ける職員も多いことから、近隣の学校のモデル的役割を果たす学校となっていると思っております。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校の存在意義として2つのことがあげられます。

1 新たな学校教育モデルの創造

大学と連携し、今日的な教育の要請に対応できる学校のモデルとなることが大切です。地域の学校の職員や住民に5年後、10年後の学校のあるべき姿を実践を通して提示し、地域のモデル校として信頼を得ることが大切です。特に今年度より佐賀大学では学部を改組し、教育学部に学校教育課程小中連携教育コースができました。国内では義務制学校の設置もはじまりました。附属小学校と連携し、小中連携校としてもモデルケースとなります。

2 次世代教員の養成への貢献

教育実習生の受け入れや本校職員の学部講義担当など、これまでも教員養成には貢献してまいりました。佐賀大学教育学部の学校教育課程小中連携教育コースでは、小中9カ年を見据えた指導ができる次世代教員を育成しようとしております。本校ではこれまで以上に教員養成に貢献してまいります。また、佐賀大学には教職大学院も設置されました。院生の課題解決のために、探求実習の場を提供し、優秀な教員の養成に貢献いたします。